

正 誤 表

『2016～17年版 そのまま使える安全衛生保護具チェックリスト集』の「参考資料」11ページに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

平成28年8月

中央労働災害防止協会

● 「② 帽体の材質比較」の表を以下の表に差し替え。

帽体の材質		性質	耐燃・ 耐熱性	耐候性	耐電性	耐溶剤 薬品性	備考
熱硬化性	FRP樹脂製 (ファイバークラス・レ インフォースド・プラス チック) ポリエステル樹 脂をガラス繊維で強化 した樹脂		◎	◎	×	○～◎	耐候性、耐燃性には優れるが電気用帽子としては使用できない
	ABS樹脂製 (アクリロニトリル・ブ タジエン・スチレン)		△～○	△～○	○～◎	×～△	耐電圧性能には優れるが高熱環境での使用には不向き
熱可塑性	PC樹脂製 (ポリカーボネート)		○～◎	○～◎	◎	×～△	耐候性はABSよりも優れているが、溶剤、薬品等には不向き
	PE樹脂製 (ポリエチレン)		×～△	○	○～◎	○～◎	有機溶剤系の薬品を使用する環境には最適

◎=特に優れている ○=優れている △=やや劣る ×=劣る

● 「③ 保護帽の試験内容および性能」を以下のとおり訂正。

頁	行	誤	正
11	下11	2. 飛来・落下物用保護帽	2. 墜落時保護用保護帽
11	下6	帽体を人頭模型に装着し、重さ3kgの円すいストライカを1mの高さより頂部をセンターとするφ100mmの内に自由落下させる、その時、ストライカの先端が人頭模型に接触しないこと。	帽体を試験用ジグの頂部リングに、落下点がそれぞれ帽体の前頭部、後頭部及び両側頭部になるようにかぶせ、重さ1.8kgの円すい形ストライカを0.6mの高さから自由落下させる。その時、試験用ジグの頂部リングの上端から帽体内面のくぼみの最下降点(円すい形ストライカの先端が帽体を貫通した場合にあつては、当該円すい形ストライカの先端までの垂直距離が15mm以下であること。